

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ぐるーあつぷ高原		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 21日		～ 令和8年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 20日		～ 令和8年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 1月 20日		～ 令和8年 3月 10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者)		(回答数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先施設(保育所・幼稚園・学校等)と連携し、児童の特性に応じた支援を行っていること。	訪問前に児童の状況や課題について事前に情報共有を行い、訪問時には現場の状況を踏まえながら具体的な支援方法や環境調整について助言を行っている。訪問後には記録を作成し、関係者間で情報共有を図っている。	訪問先施設との連携をさらに深めるため、定期的な情報交換や支援方法の振り返りを行い、児童にとってより効果的な支援体制の構築を図る。
2	児童の集団生活への適応を目的とした環境調整や支援方法の提案を行っていること。	児童の発達特性や行動特性を踏まえ、集団活動に参加しやすくするための声掛けや環境設定、活動の進め方等について具体的な助言を行っている。	訪問支援の内容を継続的に評価し、児童の発達状況に応じた支援方法の見直しを行うことで、より効果的な環境調整を実施していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援の内容や支援方法の共有が訪問先施設によって差が生じる場合があること。	訪問先の環境や支援体制、職員配置等が施設ごとに異なるため、支援方法の定着に時間を要する場合がある。	訪問時の助言内容を具体的に整理し、継続的に情報共有を行うことで支援方法の理解と定着を図る。
2	関係機関との連携体制をさらに強化する必要があること。	児童を取り巻く支援機関が複数ある場合、情報共有の機会が十分に確保できないことがあるため。	必要に応じてケース会議や情報交換の機会を設け、関係機関との連携を強化し一貫した支援体制の構築を図る。
3	訪問支援に関する専門的知識や支援技術のさらなる向上が必要であること。	児童の発達特性や支援ニーズが多様化しているため、専門的な知識や支援技術の継続的な習得が必要である。	外部研修や事業所内研修を計画的に実施し、訪問支援員の専門性向上と支援の質の向上に努める。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所くろーあつぷ高原		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 21日		～ 令和8年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 20日		～ 令和8年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭や学校との連携を重視した支援体制を整えていること。	連絡帳や送迎時の情報共有を通じて保護者とのコミュニケーションを図るとともに、必要に応じて学校や関係機関との情報交換を行っている。	関係機関との連携会議や情報共有の機会を増やし、地域全体で児童を支える支援体制の強化を図る
2	安心・安全な環境の中で社会性や生活能力の向上を支援していること。	日常生活動作の支援や集団活動を通じて、社会性やコミュニケーション能力の向上を図る支援を行っている。また安全管理マニュアルを整備し事故防止に努めている。	活動プログラムの充実や地域交流の機会を増やし、社会参加の機会を広げる取り組みを検討していく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の専門性や支援スキルのさらなる向上が必要であること。	児童の特性が多様化しており、専門的知識や支援技術が求められる場面が増えているため。	外部研修への参加や事業所内研修を定期的に実施し、職員の専門性向上と支援の質の向上を図る。
2	活動プログラムのさらなる充実が必要であること。	利用児童の年齢層や特性が幅広く、それぞれに適した活動内容の検討が必要であるため。	児童の発達段階に応じたプログラムの見直しや新たな活動の導入を行い、より多様な体験機会を提供する。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ぐろーあつが高原		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 21日		～ 令和8年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 20日		～ 令和8年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の発達段階や特性に応じた個別支援計画に基づく支援を実施していること。	児童発達支援管理責任者を中心にアセスメントを実施し、保護者の意向や児童の課題を踏まえた個別支援計画を作成している。また、支援経過を日々記録し職員間で共有することで支援の一貫性を確保している。	定期的なモニタリングとケース検討を行い、児童の発達状況に応じて支援内容を見直すとともに、専門職との連携を図り支援の質の向上に努める。
2	保護者との連携および家庭支援を重視した支援体制を整えていること。	連絡帳や送迎時の情報共有、定期的な面談等を通じて保護者とのコミュニケーションを図り、家庭での関わり方について助言や相談支援を行っている。	保護者支援の機会をさらに充実させるため、保護者面談や相談機会の確保、必要に応じて関係機関との連携を図りながら継続的な支援体制を整備する。
3	安心・安全な環境のもとで社会性や生活能力の向上を支援していること。	安全管理マニュアルの整備や事故防止のための職員間共有を行うとともに、集団活動や生活動作の支援を通して社会性や基本的な生活習慣の習得を支援している。	活動プログラムの充実や地域資源の活用を検討し、児童の社会経験の機会を広げるとともに、より実践的な生活支援を提供していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の専門性および支援技術のさらなる向上が必要であること。	発達特性が多様化しており、専門的知識や支援方法に関する理解をより深める必要があるため。	外部研修や内部研修を計画的に実施し、発達支援に関する専門知識の習得および支援スキルの向上を図る。
2	関係機関との連携体制のさらなる強化が必要であること。	保育所・幼稚園、医療機関、相談支援事業所等との情報共有の機会が十分とは言えない場合があるため。	必要に応じてケース会議や情報交換を実施し、関係機関との連携を強化することで一貫した支援体制の構築を図る。
3	活動プログラムのさらなる体系化と充実が必要であること。	児童の発達段階や個別の課題に応じたプログラムの整理や評価を継続的に行う必要があるため。	活動内容の振り返りと評価を行い、発達段階に応じた支援プログラムの整理・見直しを行うことで、より効果的な支援の提供に努める。